

県立埴工業高等学校

教科名等：公民「現代社会」

単元(題材)名：働くこと、社会とかかわること
学 年：第2学年

実施状況

現在の求人状況と2年生の進路希望の状況（それぞれ事前に調査しグラフ化）を踏まえ、働くことの意義、そして雇用をめぐる環境（特に女子の就職状況の厳しさ）を説明した。

その上で男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法に触れ、法の求める理想と現実のギャップ、そしてそれを乗り越えて生徒自身が自己実現（就職）を達成するためには何が必要かを考えさせる授業を展開した。

生徒の感想

- ・ どれだけ就職が厳しいのかがわかりました。今からできることをしっかりやりたいです。
- ・ 働くことを何も意識せず後回しにしてきましたが、今回の授業を受けて、危機感や不安が大きくなりました。また、社会に貢献できる人になりたいと思いました。
- ・ 女子の就職状況の厳しさを知って、少し考えてみようと思う気になった。
- ・ 授業を通して、これから何のために働くのか、考えることができたと思います。
- ・ 進路にかかわらず、いつかは必ず就職する。早いか遅いかだけの違いの中、どのようにして「何にでもなれる自分」、つまり能力を身に付けていくか。本気で考えようと思った。

参観者の感想

- ・ 「男女共同参画社会」の言葉をあまり意識せず、進路について自ら考える中で自然にこの言葉を認識・理解できている授業展開は良かった。
- ・ 事前アンケート調査や授業プリントの作成など、授業準備の大切さをあらためて感じた。来年の就職活動に向けて、良い緊張感を持たせる授業だったのでは。
- ・ 工業高校では、女子の就職が難しいという理由がよくわかった。生徒の生活に直接関係する内容だったのでおもしろかった。
- ・ 生徒を動かす場面がもっと欲しかった。生徒の意見等を授業展開の中に入れられれば、さらに認識・理解が深まったように感じる。

指導者の感想

現在、進路指導部担当であることを利用し、求人件数を調べ上げ、生徒にとって実感がわく数字を並べた上で授業を展開しました。教科書の内容に「男女共同参画社会」の話を加えたため、内容が多くなり過ぎ、最後は時間が足りなくなりましたが、この授業の内容を通して、生徒が男女の平等、そして来年度の就職について意識してくれれば、と考えています。

授業を展開する上で、理想論を述べるのではなく、現実の社会の中で少しずつ良い方向に進むためには何が必要か、どんな努力が求められるのかを考えました。より具体的な結論の方が本校の生徒は理解しやすいのではと思いますが、生徒たちが（特に女子生徒が）将来に向けてよりいっそう自分を磨くことにつながってくれば、と願っています。